

寺町散歩（8）向陽山光永寺

史談会幹事 村崎春樹

光永寺は、長崎惣町桶屋町に在り、今までご紹介した寺町界隈の寺院を含め、長崎の寺院は長崎市史地誌編によれば光雲寺、西勝寺、法泉寺、大平寺地福院（現在小曾根町へ移転する前身）など同寺（光永寺）を除き長崎代官支配地に在ったが、前記寺院は長崎市街地（長崎惣町）いわゆる長崎奉行支配地に在ったと云う。光永寺の開基慶西上人は、『向陽山光永寺その由緒と沿革』によると肥前国唐津の人で佐賀龍造寺家につらなる唐津久兵衛とされている。慶西は、慶長18年（1613）徳川幕府は吉利支丹禁教令が



発布されたが吉利支丹教徒の勢いは少しも衰えず力による鎮庄では効果を得る事は出来ない事態を憂い、吉利支丹の拠点である浦上（具体的な場所は不明）に庵を構えて、吉利支丹の威嚇、妨害を受けながら布教を行った。慶長19年



（1614）、時の長崎奉行長谷川左衛門は、古川町（後の本古川町）のサンアウグステン寺址を寺地に与へ、一寺を建立、後に同寺は桶屋町へ移った。元和7年（1614）東本願寺第13代法主宣如上人から光永寺の寺号を許された。寛文元年（1661）御坊格の資格を付与された。同3年（1663）3月筑後町より出火し長崎の街の九割を焼失させた大火によって光永寺も類焼したが、第4代住持草順は唐大通事彭城仁左衛門他長崎在留の唐人や檀信徒の協力を得て寛文10年（1670）に再建した。天和3年（1683）寺内に聞名寺と光明寺を開創、本山より寺中寺号を許された。元禄2年（1689）3月阿弥陀橋（当時は無名橋）を架設した園山善爾は明版大蔵経九千四百九十五巻を寄納し、経蔵「信庸庵」を建てた。第5代住持圓隆は正徳元年（1711）院家（明治維新前の大谷派の僧位は五ヶ寺、寺巡讃地、院家、内陣、餘の間、飛椽の六階級があり、この内五ヶ寺、寺巡讃地は特別の階級で全国諸寺の最高位は院家）に昇進、長崎奉行所に於ける禮席の順は諏訪社宮司従五位諸大夫青木若狭守の次席となった。寛政7年（1795）光永寺第8代住持日蔵（長崎代官高木作右衛門第五子、「向陽山光永寺その由緒と沿革」光永寺事務所発行は日蔵としているが、長崎市史地誌編は圓備としている）の時、寺格は、江戸浅草御坊と同格、翌8年（1796）には門外築地の筋堀を許され、更に同11年（1799）には朱印地同格となった。文化3年（1806）桶屋町側にあった大門を、中島川沿に参道新設のうえ山門を移した。本堂も正面も東方へ転じるため文化12年（1815）に再建され、向陽山の山号を称したのはこの時

からである。時は幕末期の安政元年（1854）、福沢諭吉（光永寺その由緒と沿革によると当時中村姓で満19歳）は、長崎への遊学中、同寺へ約1年間寄寓（この期間については、数ヶ月ではオランダ通詞宅たとも云われていたとされており、同裡書院脇の廊下屋）がその場所（現の説明による）とさ



福沢諭吉留学の間

る。また山門前左側には昭和12年（1937）長崎三田会による「福沢先生留学趾」石碑がある。明治12年（1879）1月長崎県は、地方議会開催のため同14年（1881）まで5回長崎県議会が開催された。山門は、もと桶屋町通りに面していたが文化元年（1804）中島川沿いて東向きの現在の位置に建て直された。この門は長崎県下における朱印地様式唯一の遺構で、袖に門番の住宅が附属されている長屋門で総檜造・瓦葺・単層・切妻造・建坪7坪半、筋堀は山門と同時期に設けられた。山門を入ると境内中央に公孫樹（銀杏）があり、原爆の爆風にも耐えて山門を守った。本堂は寛文10年（1670）と文化10年（1813）に



園山善爾の像

改築され、明治36年（1903）に修繕されたが、昭和20年（1945）の原爆によって大破し、解体され、平成元年（1989）に再建された。鐘楼は本堂に向って左側にあり、明治31年（1898）に修繕され、平成になってから鐘撞は自動化された。長崎市史に記載されている学生寄宿舎（旧光明寺）、経蔵、聞名寺、門番住宅（長屋）は、現在は存在して無い。鐘楼の前面に園山善爾墓所がある。長崎市史には本堂右側に在って域内は五拾七坪余りあるとされ鐘楼の前面に園山善爾墓所がある。長崎市史には本堂右側に在って域内鐘楼の前面に園山善爾墓所がある。長崎市史には本堂右側に在って域内は五拾七坪余りあるとされている。その場所には納骨堂がある。現在の園山善爾墓所は、中央左側に園山善爾碑があり、正面には石祠があり園山善爾の石像が安置されている。祠前の石柱には、左は鳥鳴林木長時楽、右は天照石堂不夜燈の文字がある。また経蔵が立っていた時、前にあった花崗石海石塔の五重塔があり正面下部に信庸庵の三文字と元禄二年己巳三月信大善爾建立の文字が刻してある。また庫裡の書院には、小曾根乾堂の書の額がある。また納骨堂前には、娑羅の双樹がある。娑羅双樹とは、平家物語冒頭の「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり娑羅双樹の花の色…」で有名な樹がある。（完）

後にへ移ったし、寺庫（小部住持）を持れている。